

せいらんそう

社会福祉法人
芳香会誌
第36号
2017年7月発行



グループホーム輝希のいえ、家庭菜園の様子♪

もくじ

CONTENTS

社会福祉法人としての
新たなスタート

・・・ 2

障害福祉施設トピックス

・・・ 4

職員紹介

・・・ 5

革新を続けるサービス
～時代の変化と共に～

・・・ 3



芳香会活動報告 ・・・ 6

芳香会スケジュール ・・・ 6

編集後記 ・・・ 6

2016年4月14日に発生した熊本地震において被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げますとともに、当法人も引き続き復興に向けた支援活動に取り組んでまいります。

社会福祉法人としての新たなスタート

長年にわたり、論議をされてきた社会福祉法人改革の法施行にともない、二十九年四月期からスタートしました。国が私たち社会福祉法人に求める望ましい姿としての第一歩でしょう。

- 一、組織のガバナンス強化
 - ・ 役員体制の見直しによる外部者からの意見聴取
 - ・ 自組織の運営の透明化を図り、理事長及び業務執行理事の業務報告・業務内容の透明化を図る
- 二、財務会計の公表を強化する
 - ・ 詳細にかつ、個々の事業の分類を明確にする
- 三、社会貢献事業を積極的に行う
 - ・ 多様化する社会の情勢から、対象者枠を法律内の福祉事業だけではなく個々のニーズ・必要とされる支援を提供できるような法人の力を整える

特に今回の新役員体制については、福祉学教授を始めとし、弁護士、司法書士、公認会計士、建築士等、福祉法人を営む上での異業種の方々にご就任していただきました。福祉事業の内容を幅広く、ご理解、ご協力を得ることを目標とし、今後より一層の「社会福祉法人の見える化」に努めて行きたいと考えています。

【社会福祉法人芳香会 理事長 宇留野光子】

平成二十九年 芳香会 事業活動計画

法人本部の体制見直しと人事改変による

業務改善の努力

十三年目の本部体制となる。新たな人事改変を、①事務局長補佐 ②建物管理士（事務員）の配置により本部の体制強化と新たな福祉法人改正への対応を順次行っていく。

また、建物すべてが二十年以上を経過し、今後の整備管理においては随時調査を実施し安全な環境維持に努めていく。

働き方の再考と次世代管理者の育成や

業務体験研修体制の強化

二十八年度には、全職員を対象に労働時間に係る記録整備や業務内容の把握を実施し、日々の時間管理や業務内容を知ることにつなげた。今後も継続し働く時間と業務内容の意識づけを継続していく。

更に、複数の管理者の年齢超過に伴い、次の管理者育成については今後数年間の課題でもある。組織全体を通して新たな研修の導入や業務習得に向けて適材適所を目的に準備していく。

新たな事業の取り組みに挑戦する

四月以降、養護老人ホームでは定員を十名削減し空き部屋の使用方法として自立準備ホーム（矯正施設退所後六ヶ月の預かり入居）や生活困窮者支援法の対象者支援・一時預かり（従来の短期入所）事業の利用者を増加させていく。

十月以降、機能回復訓練事業（回復期病棟退院後の訓練支援）

社会復帰を目標とした回復期病棟の退院患者さんを中心とするリハビリ訓練の提供事業である。

療育園を主たる実施事業所とし、担当職員とともに準備と事業の体制づくりに力を注いで行きたい。

五ヶ年計画に基づく財務体制の強化と

年次計画策定を工夫する

療育園（重症心身障害児者対応）の全面建て替えを四年後の目途とし、法人全体の会計の在り方を見据え準備を推し進める。

詳細な会計把握が可能となるよう、また事務職の視点と力量が高められるよう二十八年度に実施できなかった研修に力を注いで行きたい。

ダイバーシティ（多様な人材を積極的に活用し雇用の機会を平等化する）の職員体制を常に意識し働きやすい職場づくりを行う

第一に、二十八年度には、EPA介護福祉士候補生も八名の在職者が勤勉に従事している。（四事業所にて配属となっている）全員が、目標の国家試験受験まで就業し「日本の介護の良い点」を理解して貰えるよう今後も期待したい。また、二十九年度においても、介護職員の増員受け入れが可能となるよう、体制の強化を図っていく。

第二に、障害者雇用においては、新たな清掃機器の使用や業務の改善を要する点が多々生じている。今後は、職員間でのコミュニケーションを増やし、業務内容が充実できるよう支援の強化に努めていく。

第三に、高齢者雇用の人員数も年々増加している。研修の機会を増やし、応用力のある先輩としての活躍を期待したい。

芳香会 新役員のご紹介

理事長	宇留野 光子	評議員	嶋山 裕之
業務執行理事	宇留野 功一		宮下 幸雄
理事	赤岩 茂	選任・解任委員	小嶋 啓明
	馬場 茂樹		岩田 純明
	森田 悦男		天野 マキ
監事	吉田 裕志	第三者委員	池谷 達郎
	天野 マキ		西村 孝
評議員	坂東 祐治		中山 征勇
	有村 大士		藤田 優
	齋藤 行信		竹内 淳
	志村 和俊		

平成29年6月からの新たな体制です
詳細については当法人のHPをご覧ください

革新を続けるサービス 時代の变化と共に

社会福祉法人芳香会では、古河市基幹相談支援センターを受託しております。また、養護老人ホームは新年度より大きく運営内容を変化させ、新たな出発を果たしました。

地域住民に寄り添う

古河市基幹相談支援センター

古河市基幹相談支援センターは平成二十五年に古河市より事業を受託し、今年で四年目を迎え、四名の相談員が配置されています。

基幹相談支援センターとは、総合相談・専門相談、地域の相談支援体制の強化の取組、権利擁護・虐待防止等の役割を担う事業です。この中で私たちが行ってきた実践をご紹介します。

まず、地域で障害児者が暮らす事は、ご本人への支援だけでなく、一番近くで支えているご家族やご近所の暮らしも見ていく必要があります。私たちは、障害児者が暮らす地域へ細やかに訪問し、ご本人・ご家族の悩みをお聞きし、必要なアプローチを行っていきます。もし、解決が困難なケースである場合、基幹相談支援センターとして、自立支援協議会へ不足している資源の提言を行う等、市の障害福祉施策にも参画しております。

次に、古河市内の相談支専門員に対し、毎月、事例の検討を行う事や、最近、特に多い事例であり支援の難しい発達障害や精神障害



に関して、専門の方をお呼びし、学習会の開催を行い、資質向上を図っております。

これらの実践を積み重ねてきた事により、地域の相談支援体制が強化され、支援の質の向上が図れた事や、困難な事例を支援者一人では抱えてしまい、“解決出来ないもの”にしてしまうのではなく、古河市全体の課題と捉えられるような仕組みを作る事が出来ました。



最後に、私たちは、“地域づくり”“人づくり”を目指しています。支援をすすめていくなかで、出来る限り地域住民と一緒に考えていきたいと思っており、これを積み重ねていく事で、お互いを支えられる人が増え、ひいては誰もが住みやすい地域が作られていくと信じています。その為に、基幹相談支援センターとしては、古河市内十箇所の相談支援事業所と協力し、福祉分野に限らず垣根を越えた横のつながりを広げていきたいと思えます。

【青嵐荘つくし園相談支援事業所

係長 長谷川大史】

決意新たにリスタート!

青嵐荘養護老人ホームでは、事業方針を大きく転換し、新たな経営・運営に取り組み始めました。

施設の方針としては、入所者の生活の質、支援内容や職員体制等を考慮し、要介護者については介護保険施設への住み替えを図り、養護本来の対象者である「自立者」を中心に支援を行っていく事としました。

平成二十九年四月からは入所定員を五十名から四十名に削減し、空床となった十床分については弾力的に活用できるように整備いたしました。

まず「自立準備ホーム」として登録を行っております。これは矯正施設出所者を受け入れ、その方に適した生活の場やサービス利用調整などを地域生活定着支援センターや保護観察所などと連携して取り組む事業となっております。



次に「独自入所事業」の実施に向けて整備を行いました。これは老人福祉法による養護老人ホームへの措置入所ではなく、措置入所の要件から外れてしまう方、制度の狭間に位置するため支援を受ける事が困難な方や障害制度から高齢制度への転換期にある方などを対象としております。これらの事業で空床部分を積極的に活用し、制度の狭間で支援を必要としている方や地域の中で眠っている新たなケースの掘り起こしに取り組んでいきたいと思えます。

また最近では精神疾患や知的障害を有するなど、入所希望者の背景も多岐に渡っております。適切な支援が提供できるよう、関係機関との連携を密に図るとともに職員の質の向上にも努めていきたいと思えます。

現在、養護老人ホームには“変化”が求められている時期なのだと思います。施設に求められている役割や機能を十分に発揮する事ができるよう、常に考え、実践して参ります。

【青嵐荘養護老人ホーム 施設長 根本隆行】

障害福祉施設トピックス

事業所紹介

みのりホーム

みのりホーム（ふきのとう・芳春のいえ・輝希のいえ・栄花）は知的もしくは身体に障害をもった方が生活されているグループホームです。グループホームは生涯の生活の場ではなく、社会や地域に出るために必要なことを学び、次のステップに上がるための場所になります。そのため、みのりホームでは昨年度入居者の入れ替えを行い、4つのグループホームを就労系（ふきのとう・栄花）と生活系（芳春のいえ・輝希のいえ）に分けました。全体で二十五名の定員です。

ふきのとう・栄花は、就労されている方が入居されています。グループホームでは、洗濯・部屋の掃除・お風呂場の掃除、朝食後のお血洗いなどを自分たちで行っています。不十分な部分は世話人と一緒に行い、少しずつやり方を覚えていきます。家事だけでなく、人との関わり方や嫌なこと・困ったことがあった時にはどうすればよいのかなどをグループホームでの生活を通してその都度、考えていきます。将来的にはアパートでの一人暮らし等も選択肢になれるよう支援を行っています。



芳春のいえ・輝希のいえの入居者は日中、路のとう舎やつくし園で活動を行っています。路のとう舎は現在、7つの活動班に分かれており、中には外部から受注している内職作業班2つ、農作業班、空き缶つぶし班等、疑似就労的な班があります。将来の「就労」に向けて、主に近隣の散歩を行う班や教材や軽運動を中心に行う班から疑似就労班へ移行した方もいます。日々の活動を通して、それぞれの班で作業レベルの向上に取り組んでいます。グループホームでの生活では、他入居者の方と協力して何かを行うことや人との関わり方、生活のマナー等、様々なことを学んでいます。また生活の中に楽しみがあるから日頃の活動を頑張れるのではないかと思います。そのため今年度は余暇の充実に力を入れており、その一環として個別もしくは少人数での買い物

の機会を増やしています。ゲームソフト・おやつ・歯磨き粉等、入居者の方が買いたい物はいろいろです。買い物先では、自分が必要な物を自分で選び、お金を出して買っています。地域に出て買い物することは、必要な物を自分で買っていくというだけでなく、様々なことにふれ合う機会だと思っています。今後ともみのりホームでは、日々の生活の充実とともに将来を見据えていきたいと考えています。



つくし園多目的ホールオープン 青嵐荘つくし園

昨年十一月、新しい地域交流・日中活動の場として「青嵐荘つくし園多目的ホール」がオープンいたしました。ここでは防音加工を施した「多目的ルーム」を活用することで、太鼓などの音楽活動と手芸や工作など集力を要する創作的活動とを同時に行うことができるようになりました。

他にも、天井走行リフトを用いた移乗介助や歩行訓練、レクリエーションやリハビリ体操システムである健康王国搭載ジョイサウンド、と様々な設備があります。これらを活用することで、地域で暮らす障害をもった方々のニーズに応じて、より一層充実した支援をすることができるようになりました。また、老人会や子ども会、近隣の中学生等、地域の皆さまとの交流スペースとしての使用も開始し、体力測定や茶話会、協働で管理する花壇への花の植栽を実施しました。今後は地域の皆さまの各種活動にも使用していただく予定です。

芳香会尾崎地区では多目的ホールを活用し地域の皆さまとの交流の輪を拡げていきます。お近くにお越しになった際は、是非お立ち寄りください。



職員紹介



平成二十九年四月、社会福祉法人芳香会では九名の新卒職員を迎えると共に総勢二十四名が辞令を受けました。今号では、新卒入職者代表三名の「今後の抱負や意気込み」を紹介させていただきます。

新卒入職者からひと言



【青嵐荘療護園 山中生活支援員】

入職して三ヶ月、毎日学ぶことが多く大変です。ですが、常に優しさを忘れず、ご利用者の方々の健康と安全を第一に考え、ご利用者及びご家族の方々から信頼してもらえよう、先輩職員の方々にご指導を頂きながら頑張りたいと思います。また、私の長所である笑顔を常に大切にし、ご利用者の方々に自然と笑顔になってもらえよう、自分らしい支援をしていきたいと思っておりますので、宜しくお願ひします。



【牛ヶ谷保育園 濱本保育士】

私は四月から長年の夢だった保育士になりました。子ども達の気持ちに寄り添い、個性や主体性を大切にできる保育者になることが目標です。その為に子ども一人ひとりを理解し、発達に合わせた援助や子どもの「やりたい」気持ちを大切にしたいです。先輩方の



ような立派な保育者を目指し、日々成長していきたくと思います。

【青嵐荘ケア・アシスタンス 渋谷介護員】

私は、平成二十九年四月にこの介護の仕事を始めました。この仕事は大変ですが、将来に役に立つことがたくさんある仕事だと思います。そして、生活している利用者様の状態を良く知り、自分で考え、上司・先輩からのアドバイスを頂きながら、もっとこの仕事に誇りをもって働いていきたいと思ひます。高校生のときとは全然違い、覚えることがたくさんありますが、一つ一つを整理していきながら上達していき、自分にも利用者様にも負担のかからない丁寧な介助が出来るように日々を努力していきたくと思ひます。



芳香会奨学生紹介



当法人では平成九年度より、独自の奨学金制度を設け医療職等の育成をおこなってまいりました。毎年、近隣の高等学校をはじめとする生徒の皆さんを対象に看護の奨学生を募集しております。

また、芳香会ではこの奨学金制度を利用して、介護職から看護師を目指すために看護学校に入学する職員もおります。

この制度を利用して今年度、看護学校に入学した新卒の准看護学生と在職の看護学生からひと言紹介させていただきます。

芳香会奨学生からひと言



【芳香会病院青嵐荘療護園

野本准看護学生】

私は、仕事と学校を両立して、利用者の方に寄り添うことが出来る准看護師を目指していきたく思っています。

現状では月に数回しか出勤できていませんが、その中で利用者の方達ひとりひとりについて少しずつ理解していき、介助の方法など学んでいきたく思っています。まだまだ覚える事も多かったり失敗してしまう事もあるかもしれませんが、積極的に利用者の方達と関わったり、介助を行って学んでいきたく思っています。



【青嵐荘つくし園 田中看護学生】

私は生活支援員を三年間経験し、病気で苦しむ人の心身の負担を和らげることが出来る人になりたいと思ひ、看護師になる決意をしました。そして、現在は法人の奨学金制度を利用して、看護学校に入学することができました。

看護学校に入学してから、自己学習や課題を行う時間など、目まぐるしく忙しい毎日です。しかし、辛いと思つたことはなく目標に向かって学ぶ喜びにわくわくしています。



看護師資格取得という大きい目標に向かって、まずは目の前にある授業や演習の予習・復習を行い地道な努力を積み重ねていきたく思っています。

芳香会活動報告

第十四回 ほたる祭り



六月三日(土)に古河市ネーブルパークにて、「第十四回 ほたる祭り」が盛大に開催されました。ほたるの鑑賞スポットとなる「ほたるの里」では天敵であるザリガニの駆除を徹底した結果、二十四匹強のゲンジボタルの生育に成功したそうです。

お祭りでは、メインイベントの前に歌や踊りなどを披露するプレイイベントが午後三時半から行われおり、地域の団体の方々が、練習の成果を存分に発揮していました。芳香会からも青嵐狂つくし園の和太鼓チーム「和音」がすばらしい演奏を披露しており、力いっぱい演奏する姿にメンバーの皆さんを誇らしく思いました。

また芳香会も昨年に引き続き、熊本地震の被災地復興の一助となる事を切に願って、セルプ製品等の代理販売を行いました。商品は、昨年好評であった「社会福祉法人ひまわり学園(御船町)」の商品に加えて、「道の駅阿蘇」の商品を代理販売させていただき、来場者の皆さんの温かいご支援のおかげをもちまして完売することができました。

ほたる祭りは、文字通り幻想的な蛍の光を楽しむ催しではありますが、それ以外のイベント等を通じて、地域住民同士の繋がりが結びつきを深め、交流を促進する場にもなっている事を改めて感じました。そしてその運営の一部に社会福祉法人の職員として携われた事に感謝したいと思えます。

【青嵐治療護園 大塚相談支援員】



運営推進会議と地域への繋がりに



グループホーム穂の香は、地域密着型サービスとして位置付けられており、より良いサービスを提供するには身近な地域力が不可欠です。その様な中、穂の香においては年六回「運営推進会議」という地域の方へ当事業所並びに当法人取り組みを報告し、透明性の確保を図ると共に、地域の方から貴重なご意見を頂きサービス向上へと繋げる会議を実施しています。運営推進会議で得た情報を基に地元子供会神輿交流へ繋がりが、歴代子供会会長とお知り合いになる事が出来ました。歴代会長の中には自警団団長や消防団員の方がおり、防災意識共有と共に、私が担っている認知症サポートー養成講座へ消防団として初めて講座を開催する事が出来ました(今件が契機となり結城市全分団講座へと広がりました)。また、今までは事業所から地域に対し、行事(祭りやクッキンググリーン作戦)呼び掛けが主流でありましたが、最近では区長より共働枝切り作業を呼び掛けて頂く等、僅かではありますが地域主導へと変化が見られています。今後も運営推進会議を通して地域の輪を広め、地域包括ケアシステムにおいてグループホーム穂の香が担う役割の明確化を構築していきたいと考えております。

【グループホーム穂の香 西村管理者】



芳香会スケジュール

- 七月十三日・十四日 雇用障碍者研修旅行
- 七月二十日 一般検査及び実地指導
- 七月二十六日 給与担当学習会

編集後記

先日、出張の移動車中から道路に覆いかぶさるような草木の風景を見て、いつの頃からこのような景色を見ていたかと記憶を辿ってみると、十数年以前からだろうと。単に憂えず「自分たちのできる事を続ける」と思いを新たにしました。

(光)
子どもがすくすくと成長しており、今は寝返りの練習に奮闘しています。途中で力尽きてぐずっている姿がとても微笑ましいです。同時に両親が私にかけてくれた愛情の尊さを実感し、きちんと親孝行をしようという決意を新たにしました次第です。

(賢)
じわじわと暑さを感じるようになってこの頃。室内でも熱中症になると聞きます。水分補給を忘れずに、熱中症対策をしっかりしましょう。(絢)



社会福祉法人 芳香会

発行責任者/法人事務局 編集/会報誌作成委員会

〒306-0201 茨城県古河市上大野698

TEL 0280-97-1027(代) FAX 0280-97-1112

ホームページ <http://www.houkoukai.or.jp> メールアドレス honbu@houkoukai.or.jp

*写真等の個人情報は、ご本人の同意を得て、掲載させていただいております。